



株式会社 免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード:4570

平成23年3月期 (第29期) 第2四半期 決算説明会

「抗体」を通じて、世界で難病に苦しむ人々が、
1日も早く、病気を克服し、明るく豊かな暮らしを営めるよう
社会に貢献いたします。

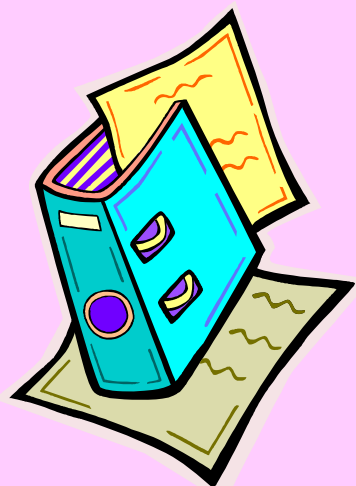


平成22年 11月 15日(月)



決算概要・経営方針

平成23年3月期 (第29期)
第2四半期



1. 決算概要
2. 経営方針



平成23年3月期(第29期) 第2四半期決算実績

単位:百万円	H22年3月期 第2四半期 累計期間 (第28期)	H23年3月期 第2四半期 累計期間 (第29期)	前期比増減	主な要因
売上高	448	498	49 11.1%	・研究用試薬関連事業 増 ・疾患モデル動物受注 減 ・医薬関連事業 増
売上原価	245	254	9 3.8%	・売上増加に伴う
売上総利益	202	243	40 20.1%	
販管費	376	362	▲ 13 ▲ 3.5 %	・人件費 減 ・研究開発費 減
営業利益	▲ 173	▲ 119	53 -	・売上増加 ・販管費削減
経常利益	▲ 171	▲ 114	57 -	
純利益	▲ 171	▲ 121	50 -	



平成23年3月期(第29期) 第2四半期 事業別売上実績

(単位:千円)		H22年3月期 (第28期) 第2四半期 累計期間	H23年3月期 (第29期) 第2四半期 累計期間
研究用関連事業		384,582	416,457
	研究用試薬関連	238,517	274,011
	抗体関連試薬販売	140,010	159,414
	その他の試薬販売	29,309	35,485
	試薬関連受託サービス	69,196	79,111
	実験動物関連	146,064	142,445
	疾患モデル動物販売	144,517	127,935
	疾患モデル動物関連受託サービス	835	1,614
	飼育・保管等サービス	712	12,896
医薬関連事業		62,611	80,192
	医薬シーズライセンス	—	—
	体外診断用医薬品販売	62,611	80,192
その他事業		917	1,389
合計		448,110	498,039

貸借対照表の概要

(単位:百万円)	平成22年3月期末		平成23年3月期 第2四半期末		
		構成比		構成比	増減
流動資産	706	29.7 %	739	32.3 %	32
固定資産	1,670	70.3 %	1,547	67.7 %	▲ 122
資産合計	2,376	100.0 %	2,287	100.0 %	▲ 89
流動負債	173	7.3 %	148	6.5 %	▲ 24
固定負債	48	2.0 %	104	4.6 %	55
負債合計	221	9.3 %	252	11.1 %	30
純資産合計	2,154	90.7 %	2,034	88.9 %	▲ 120
負債純資産合計	2,376	100.0 %	2,287	100.0 %	▲ 89



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)	平成23年3月期 第2四半期 累計期間	備考
営業活動によるキャッシュ・フロー	17	売上債権の回収による
投資活動によるキャッシュ・フロー	36	投資有価証券を売却による
フリー・キャッシュ・フロー	53	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	67	新規借り入れ8千万円
現金及び現金同等物の増減額 (非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の 増加額を含む)	122	-
現金及び現金同等物の 第2四半期残高	205	-



平成23年3月期(第29期) 決算計画

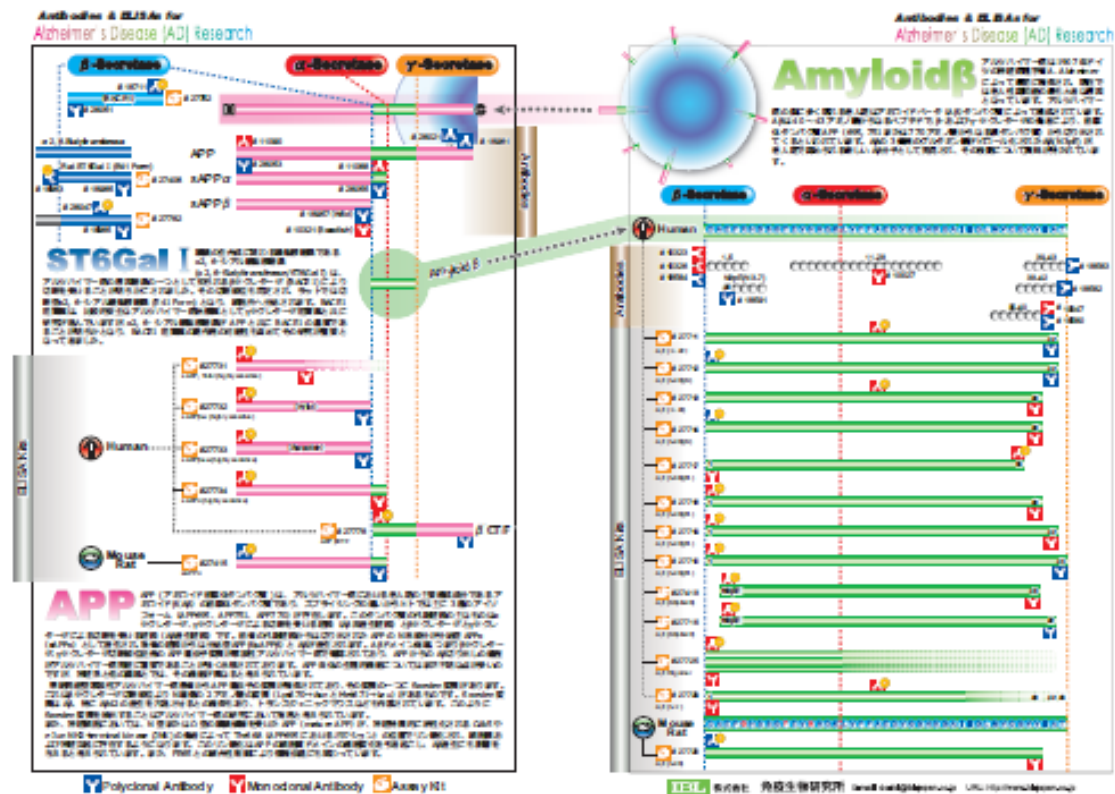
単位:百万円	H23年3月期 (当初計画)	H23年3月期 (修正計画)	増減額	増減率(%)
売上高	1,150	1,020	▲ 130	▲ 11.3
売上原価	580	500	▲ 80	▲ 13.8
売上総利益	570	520	▲ 50	▲ 8.8
販管費	690	680	▲ 10	▲ 1.4
営業利益	▲ 120	▲ 160	▲ 40	▲ 33.3
経常利益	▲ 108	▲ 155	▲ 47	▲ 43.5
当期純利益	▲ 110	▲ 195	▲ 85	▲ 77.3



■ NEDO(2007-2011)

アルツハイマー病総合診断体系実用化プロジェクト:根本治療の実現に向けて

- **Amyloid β ELISA Kit**
考えられる組合せのほとんどを製品化
- **バイオマーカー候補となるタンパク質を発見**
北海道大学と共同で特許出願



目標: 「アルツハイマー病の研究用試薬」といえば、「IBL」といわれるようになる

トピックス2

■ トランスジェニックカイコによるタンパク質製造技術開発

- 群馬県との遺伝子組換え蚕育成に関する共同研究および実用飼育を「前橋遺伝子組換えカイコ飼育組合」に委託
- 「プロテインA」と「抗体」のテスト生産開始

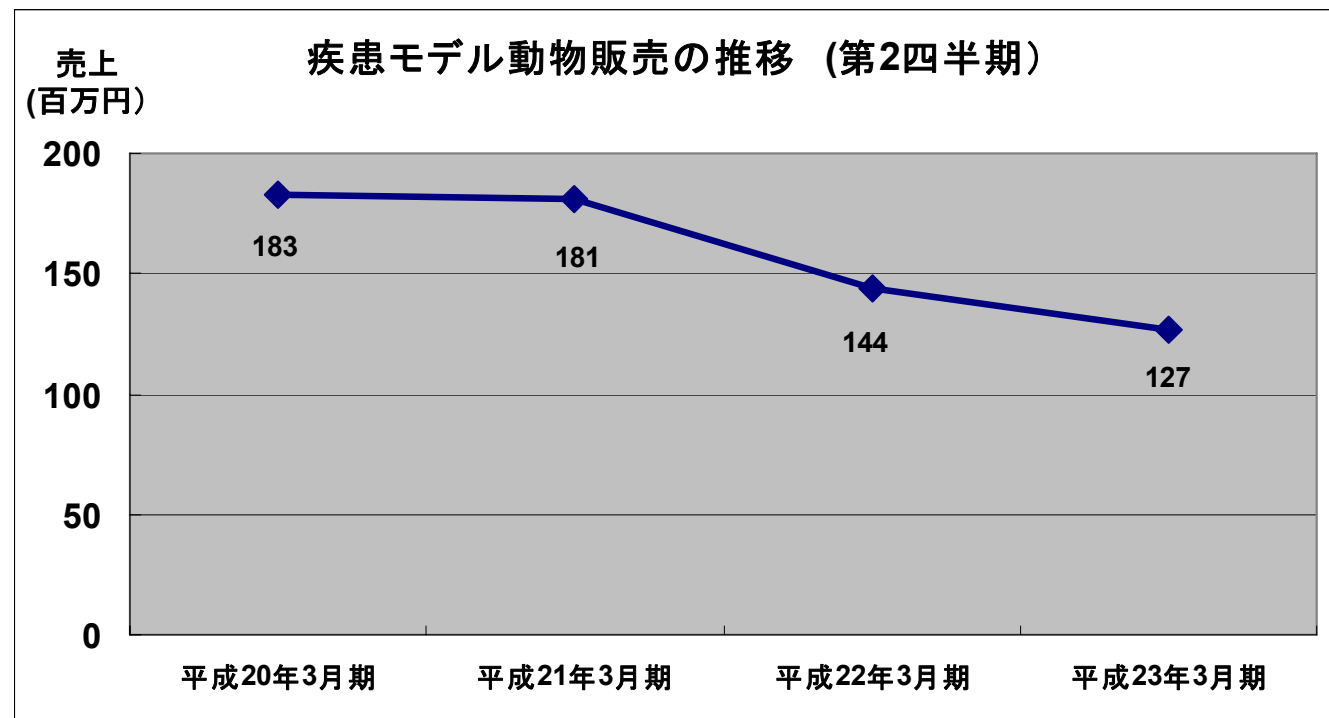
TGカイコ繭生産系の特徴と利点

- ✓ 混入するタンパク質の種類が少なく、抽出、精製に有利。
- ✓ カイコはヒトの伝染病を媒介しない。
- ✓ 幼虫には桑葉が不可欠、成虫は飛行不能なので、封じ込めが容易。
- ✓ 組換えタンパク質抽出液は、カルタヘナ法に基づく取り扱いが不要。
- ✓ 動物由来の成分を含まない配合飼料による無菌飼育法。
- ✓ mgオーダーの組換えタンパク質を顕微注射後約80日で得られる。
- ✓ 短いライフサイクル(約45日)で、スケールアップが容易。
- ✓ g-kgスケールに対応可能。



トピックス3

■ 米国タコニック社との日本での独占販売代理店契約が終了

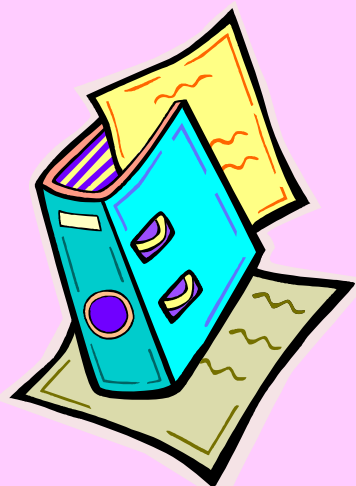


■ 同事業の売上高に占める割合 25% (当第2四半期)



決算概要・経営方針

平成23年3月期 (第29期)
第2四半期



1. 決算概要
2. 経営方針

経営方針

■ 会社全体

■ 早期退職の募集

- ✓ 募集人員：20名程度（対象者72名）

■ 研究用関連事業

■ 実験動物関連

- ✓ 実験動物関連に係る事業を行なっている三笠研究所については、抜本的な組織改定を実施
期限：平成23年3月末
- ✓ 人件費の大幅な削減
- ✓ 自社製品であるアトピー性皮膚炎モデルであるNCヘアレスマウスと、アルツハイマー病モデルであるPS2マウス、および関節リウマチ症モデルであるD1CCマウスは受託生産に



経営方針

■ 研究用関連事業 (続き)

■ 研究用試薬関連

- ✓ 営業部門において、国内販売と海外販売の業務を統合、効率改善して人件費を抑制
- ✓ 自社開発製品の販売増に注力
- ✓ TGカイコについては、平成23年4月までにネオシルク研究所を藤岡研究所に統合
- ✓ 自社抗体製品の生産効率を改善
- ✓ 群馬県との共同研究を推進
- ✓ 蚕による抗体生産体制の確立
- ✓ 「プロテインA」と「抗体」のテスト生産を開始
- ✓ 蚕による抗体医薬を目指す





中期経営計画 (平成23年3月期-平成25年3月期)

(単位:百万円)	H22年3月期 (第28期) 実績	H23年3月期 (第29期) 計画	H24年3月期 (第30期) 計画	H25年3月期 (第31期) 計画
研究用関連事業				
研究用試薬関連	537	610	660	700
実験動物関連	369	240	-	-
医薬関連事業・その他事業	152	170	170	180
売上高	1,059	1,020	830	880
売上原価	557	500	380	340
販管費	686	680	550	530
営業利益	▲ 185	▲ 160	▲ 100	10

新たな収益源となる パイプラインについて

■ 治療用医薬品パイプライン

年間に少なくとも1つの医薬シーズ開発目標

現状の医薬シーズパイプライン

【アルツハイマー病関連抗体】

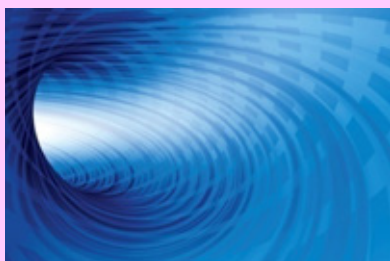
- アミロイドβタンパク質に対する抗体、コード名「82E1」について、米国 Intellect Neurosciences, Inc.とアルツハイマー型認知症治療薬としての独占的開発、製造および販売権を譲渡する契約を締結。開発の進捗に応じて契約金、製品発売後には一定率のロイヤリティーを受領する予定。
- また、新しい中和機能を有するアミロイドβタンパク質に対する抗体の開発を、共同研究先である大学および専門研究機関と共同開発中。

【抗FGFR1(線維芽細胞増殖因子受容体)抗体】

- 札幌医科大学第一内科と共同で、治療効果のある抗体と生理活性タンパク質とを組み合わせた新規肝がん治療法を開発中。

【その他がん関連抗体】

- がんのシグナル伝達に関わる受容体ターゲットを中心に、上皮がん、中皮腫などの疾患に対する治療薬抗体の開発を進行中。



新たな収益源となる パイプラインについて

【CCL8】

- 札幌医科大学との、骨髄移植に伴うGVHD(Graft-Versus-Host-Disease)の発症の診断や本病態のモニタリングに有効なケモカインの一種であるCCL8/MCP-2の測定キットを、診断薬に向けたライセンス契約締結に向けて交渉中。

【ガレクチン-3】

- ビージーメディシン社(本社:米国ウォルサム市)が現在行っている、新しい心不全の予測マーカーが体外診断用医薬品として全世界で上市されることで、新たな収入源となることが期待。

【新規タンパク質製造技術】

- TGカイコによる有用生理活性タンパク質の製造技術開発並びに販売を生理活性物質など研究用試薬から開始し、さらに体外診断用医薬品原料等へと展開する。
- 一方、群馬県蚕糸技術センターと共同研究、実用飼育を開始。ヒト化抗体開発を目指す。

【補助金について】

- 現在、NEDO(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)プロジェクトに参画中。
- JST 研究成果最適展開支援事業(A-STEP)への採択決定
- NEDO「イノベーション推進事業」に係る助成事業への採択決定



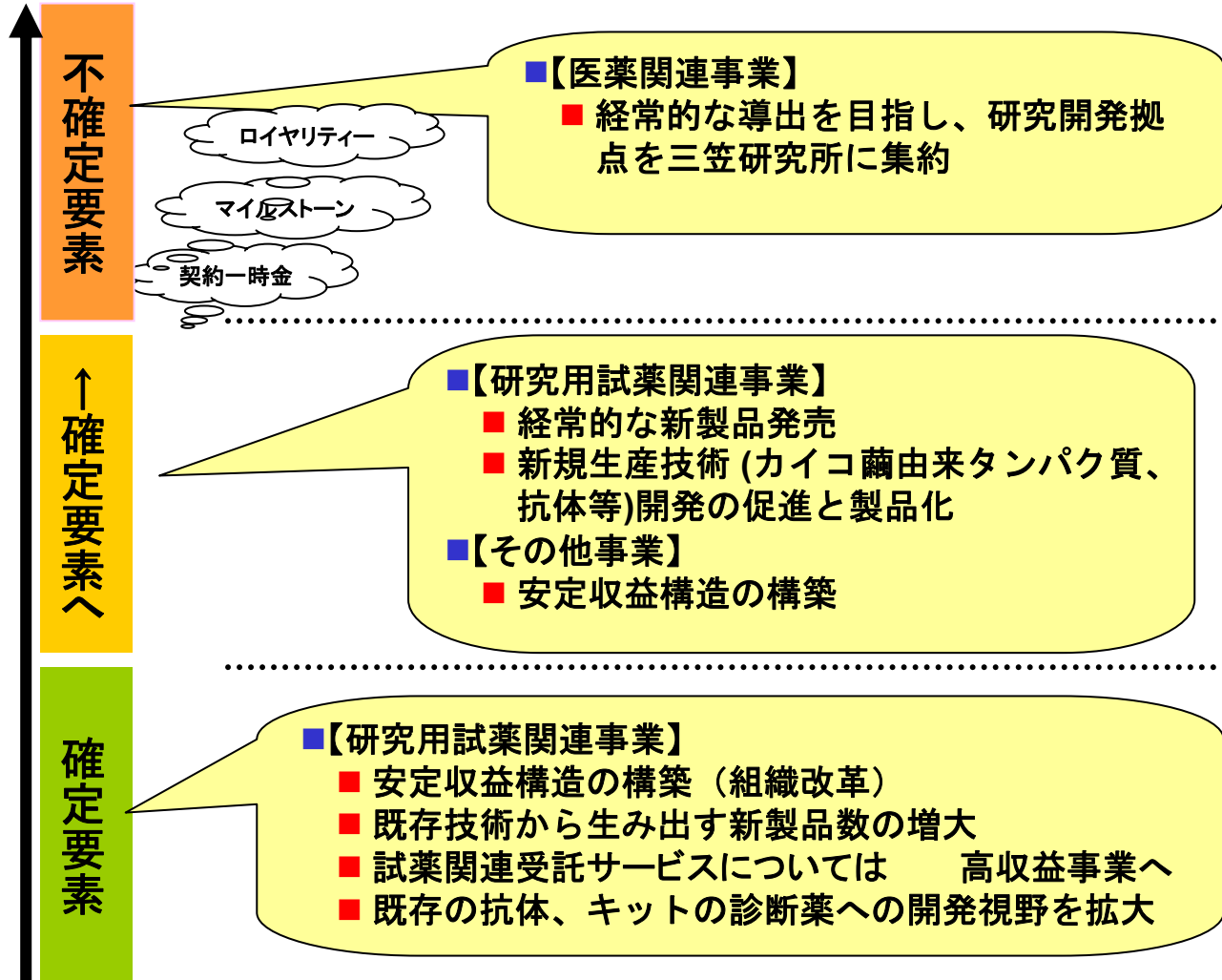
平成23年3月期 (第29期) 第2四半期総括

解決すべき課題

- 適正人員への組織改革
- 急速な事業環境の変化に対応するための事業効率向上



企業価値



 注 事

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。